



～済生会今治病院専門認定看護師レター～第9号 2016年9月発行

平成28年度も気づけばもう季節は秋。皆様はどのような夏を過ごされましたか？今回の虹では、私達の活動の一部をご紹介しますと思います。

地域への発信

様々な形で地域の皆様へ発信しています。

糖尿病市民公開講座(糖尿病看護認定看護師)

毎年1回開催しています。
(平成28年9月24日開催)
今治・周桑地域の糖尿病
に関係する多職種が連携
して開催しています。



なでしこサロン(緩和ケア認定看護師)

毎月1回社会福祉士と連
携して開催しています。
がん患者様・ご家族を対
象に様々な内容のミニ講
座などを行っています。



ウィック試着会・相談会(がん化学療法認定看護師)

平成28年度に入り2回目
の開催です。
(平成28年9月12日開催)
化学療法・放射線治療の
脱毛に対して関連メーカ
ーと協力して対応しています。



院外広報誌 きぼうへの投稿(感染管理認定看護師)

年3回広報委員会が発行
している冊子です。
感染対策についてのコー
ナーに投稿しています。



研修会

院内外を問わず研修会を
行っています。
(写真は平成28年8月24日
に開催された糖尿病の勉
強会でのグループワークの
様子です。)



村上さんが認定看護師になるまで

糖尿病看護との出会い

今から18年前...

市内の個人病院から、済生会今治病院に就職。
糖尿病教育入院の内科・小児科病棟へ配属され、
そこで、様々な糖尿病患者さんとの出会いがありました。

中学生で1型
糖尿病を発症
した男の子

糖尿病網膜症
で失明した働
き盛りの30歳
代の男性

魚の行商のため
不規則な生活のな
かインスリン治療
を行っていた
60歳代の女性

20歳代で
透析導入に
なった女性

平成15年 日本糖尿病療養指導士を取得

認定看護師を目指すきっかけ

平成18年に済生会今治第二病院へ異動し、
外来で糖尿病療養指導を開始。
第二病院の回復期リハビリ病棟30床のうち、
約25%が糖尿病合併患者さんという衝撃的
な事実も判明。

患者さんの話をただ聞くだけしかできない無能な私に
気が付いた。何か患者さんに返したい。でも何を返せ
ばいいのだろう。糖尿病患者さんを十分に理解し、そ
れぞれの患者さんに合った援助を行うためには、まず
自分自身が根拠を持った看護ができなければならない
と思うようになり、認定看護師を目指しました。

糖尿病看護の
専門性を深く
勉強したい！

認定看護師になるまでの道のり

(日本看護協会 看護研修学校の場合)

2008年10月: 入学試験出願手続き

12月: 入学試験
年末: 合格発表

20年ぶりに学生に
なりました。

2009年4月: 入学式

5月末: 研修開始

6~8月: 講義受講(座学期間)

9~10月: 臨床実習期間(7週間)

12月上旬: 研修終了

2010年1月: 修了試験

3月: 卒業式

5月: 認定審査

7月: 合格発表

【認定看護師となる】

研修
学校

研修期間中は、レポートが
なかなか書けず涙したり、
実習が上手くいかなくて落
ち込んだりしましたが、今
思えばすべてが、素敵な思
い出です。

~研修中の学び~

学習理論から見た患者教育
患者理解の方法 患者面接技法
患者へのアプローチ方法
コミュニケーション
糖尿病患者や医療職者への
教育プログラムの立案・実施・評価
(糖尿病教室、院内教育、地域住民や
企業に対して)
フットケア、血糖パターンマネジメント
コンサルテーション...

苦しみも共に支え
あった大切な仲間
との出会いは、私
の一生の宝物！

自己の看護実践の意味付けを行いながら、
新たな視点で深く患者に沿う看護を学びました。

★今の私が糖尿病患者さんとの 関わりで気をつけていること★

- 糖尿病と共に生きてきた患者さんの思いや考えを
否定せず聴く。【患者理解に努めるため】
- 患者さんの語りからどのようにアプローチをすれば
よいかを考える。
- 容易に「がんばりましょう」と言わない。まず、がんばっ
ている患者さんを認める。
- 患者さん本人が知りたいと思っていることから、わかり
やすく説明する。
- 一緒に話し合いながら、フォローしていく姿勢を示す。
- チームで患者さんを見ていくという意識を忘れない。

編集後記

虹へのご意見

専門・認定看護師への要望・相
談がありましたらお気軽にお声
がけください。
よろしく申し上げます。

編集責任: 西村